

巻頭言

印刷の国際化の近未来

国際印刷大学校長・九州産業大学名誉教授

印刷教育研究会顧問・工学博士 木下堯博

2007年3月下旬から7月下旬まで4回にわたり、渡韓する機会があった。いずれも韓国印刷学会の参加、内外の文献や印刷実験データなどを解析し、実用に活かすためのMeetingが中心であった。その中のテーマの一つとして、ジャパンカラーのように韓国の標準カラーの設定であった。4月の韓米FTA協定締結により、韓国からの貿易額が拡大することが予想され、標準カラーの制定が急がれる。一方、4月20日の韓国印刷学会、6月7日の日本印刷学会の招待講演で参加した北京印刷学院の蒲嘉陵教授と話合う機会があり、中国も標準カラーの必要性を強調されていた。韓中日による標準化はアジアカラーとなり、アジアの標準となるよう推進すべきであろう。いずれにしても印刷品質や趣向色の差が大きい韓、中両国の基準の制定はかなりのエネルギーを要するであろう。(1)

釜慶大学のKang教授による「The Color Reproduction Property Evaluation of Domestic Offset Prints」論文は21企業のデータ(L*,a*,b*)があり、韓国国内の印刷企業で指定チャートの印刷物をまとめた。それを色差で議論されていて、大変有意義な調査論文であり、著者らの研究グループは更に解析を続けている。(2)

世界の印刷インキの出荷額は145億ドルにのぼり、アジア、北米、欧州と3分割されている。特にアジアの伸びは中国、インドの経済成長と共に世界最大の消費地(3)となっていて、アメリカの経済成長(実質GDP成長2007年2.2%、2008年3.3%と予想)の原動力ともなっている。(4) 日本では科学技術政策のマスタープランに続き、イノベーション総合戦略会議で「イノベーション25」は2025年までの無限の可能性への挑戦がまとめられる。イノベーションによる価値の創造は新しい材料、機械、システムを生み出し、特許につながる。しかし、日本の国際競争力(経済、貿易、財政、産業制度、労働市場などを指数化)は2007年に24位に後退している。ちなみに1位アメリカ、ドイツ16位、中国15位、台湾18位などである。(5) 日本の10年後の情報通信産業は仮想通貨によるインターネット決済、情報発信はマスから個人へ、ビジネスアプリケーションのオンデマンド構築、携帯電話がモノへの搭載(6)などで印刷産業も学ぶ点がある。印刷の国際化は経済のグローバル化とともに拡大をみせている。

国際印刷大学がそれらに対応するため、2005年8月より始めた「プリントメディア情報」(内外文献150字のアブストラクト)は客員教授の各専門分野でまとめたもので501~555件(55件)が2007年8月1日に刊行され、9月22日にはIGAS2007講演会が開催される。詳細はHPをご参照下さい。URL: www.media-igu.com E-Mail: kinoaki@mpd.biglobe.ne.jp

(1) 日本印刷学会研究発表要旨(2007-6-7)、(2) PPT資料「Doosan Corporation」(07-5)、(3) 泉レポート(07-7-10)(4) 第一生命経済研レポート(2007-7)(5) IMD「World Competitiveness Yearbook2007」(6) 三菱総研倶楽部(2007-4) (2007年7月27日記)

印刷教育研究会会報64号(2007年8月刊)原稿